

【国語】

学習指導案

日時	平成 年 月 日(月) 第 限	指導クラス	1年 組(男20名、女20名)	指導者	
科目	国語総合	単元名	小説を読む - 『羅生門』 -	教科書名	出版「国語総合」
本時の位置	第4時(全7時間中)				
本時の学習目標	ア はしご上での下人の心理の変化とその特徴を本文に基づいて正確に読み取る。(読む能力) イ 第二段落の語句の意味を理解し、語彙を豊かにする。(知識・理解)				
クラス観	本を読むことは嫌いではないが、まとまった内容の文章を読む経験や進んで読もうという意欲に乏しい。文章を丁寧に繰り返し読むことで、作品への興味を促し、的確な理解ができる力を身に付けさせたい。				
	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価		
導入 7分	第二段落の音読	句読点に注意し、すらすら読めるようになることを目標に、立って第二段落を音読する。	すらすら音読できることを内容理解の前提とする。起立しての音読で始めることは、授業への切り替えをスムーズにする意図もある。音読時の机間指導により、漢字の読みやアクセントの確認を行う。重要なことは、音読終了後、全員に説明する。		
	本時の学習目標の確認	学習目標が「はしご上での下人の心理の変化とその特徴を読み取る」ことにあることを理解する。			
展 開 40分	難解語句の意味の理解	難解語句の意味を理解する。	意味調べの課題をチェックするために、隣同士で確認する時間をとる。 目標イに対する具体的評価規準と評価方法〔規準〕難解語句(「息を殺す」「たかをくくる」など)の適切な意味を理解している。 〔方法〕観察(発表) 〔状況Cの生徒への手だて〕下人の心理と結び付いた語句について、どのような心理が表れているを授業の中で考えていき、理解を深めるよう助言する。		
	はしご上での下人の心理の理解		目標アに対する具体的評価規準と評価方法〔規準〕下人の心理変化を、楼上の光に気付いたとき、老婆を見たとき、老婆が髪の毛を抜き始めたときの順に整理し、まとめている。 〔方法〕観察(机間指導、発表) 〔状況Cの生徒への手だて〕語り手による下人の心理の説明だけではなく、下人の様子や態度にも注目し、そこから読み取れる心理について考えるよう助言する。		
	〔発問〕はしごの上で下人の心理はどのように変化したが、また変化のきっかけは何だったか。	はしご上で生まれた下人の心理変化とそのきっかけをノートにまとめる。 指名発表された意見について交流し、理解を深める。	下人の心理の特徴を理解するために、下人の心から恐怖が消えた理由などを確認する。 目標アに対する具体的評価規準と評価方法〔規準〕下人の「悪を憎む心」が非合理的で一貫性のないものであることを、語り手の言葉を手がかりに見つけようとしている。 〔方法〕観察(発表) 〔状況Cの生徒への手だて〕門の下で下人が考えていたことと比較して考えるよう助言する。		
	下人の正義感(悪を憎む心)の特徴の理解	下人の「悪を憎む心」の特徴を、語り手の言葉を手がかりに考える。 指名発表された意見について交流し、理解を深める。			
	〔発問〕下人の「悪を憎む心」を、語り手はどのようにとらえているか。				
まとめ 3分	本時の学習のまとめと次時の予告	本時の授業のポイント(はしご上での下人の心理の変化とその特徴を読み取る)を理解する。 次時は、楼上の上での下人の心理の変化とその特徴を読み取ることを確認する。			

【地歴】「日本史A」

1 小単元「開国と維新」の指導と評価の計画（各時間ごとの指導と評価の計画） 各授業時間ごとの主な内容（特に記録を残す評価）

1 東アジア国際環境の変化と開国			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
第1時間目	アヘン戦争とアメリカの登場	2枚の星条旗の意味から近代史における日米関係に関心をもつ。 【関】	意見発表
	和親条約・通商条約の締結と開国の影響	アヘン戦争の影響とアメリカの発展「炎上する清国のジャンク」についての解説文を書く。 【技】 黒船に兵糧米を運ぶ力士の図から、ペリーの砲艦外交と日本植民地化の危機を考察する。 【思】 幕府が打倒されていく理由を推察する。 【思】	絵を見ながら意見を書かせる。質問紙記入。 意見発表 意見発表

2 政治秩序の崩壊			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
第2時間目	井伊直弼の政治の挫折と幕府権力の動揺	将軍継嗣問題を通して、井伊直弼ら幕府守旧派が維持しようとした政治路線を理解する。 【知】 観念的な尊王攘夷論から現実的な武力討幕路線への変化の意味を理解する。 【知】	南紀派と一橋派の違いについて発表させる。 薩摩・長州の尊王攘夷派がなぜ現実的な路線へ転換できたかを理解させる。 将軍慶喜と薩長派の主導権争いの意味を、場面を区切った発問と質問紙による解答で追究する。
	公武合体と尊王攘夷運動の展開 討幕運動と戊辰戦争	大政奉還から王政復古クーデターに至る政治情勢を、場面場面での推理を働かせながら理解する。 【関】	

3 明治維新と革新政策			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
第3時間目	政治体制の中央集権化（版籍奉還・廃藩置県）	幕藩体制の本質＝分権的支配体制が西洋列強の進出に対抗するために不都合であること、中央集権的支配体制の構築が不可欠であることを理解させる。 【知】	意見発表
	身分制の廃止と「国民」の創出（徴兵制と秩禄処分）	諸制度の改革の中でどの階級の人々に負担がかかっていったかを考察し、明治新政府とは何かを多面的に理解させる。 【思】	プリント記入提出
第4時間目	経済制度の改革	地租改正について多面的に考察し、戦後の農地改革が行われなければならなかったことと結びつけてその意味を考える。 【思】	質問紙記入提出
	文明開化	文明開化の諸相について幅広く理解する。 【技】	意見発表

4 対外関係の変革と内乱の終結			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
第5時間目	岩倉使節団の派遣と日朝修好条規の締結	岩倉使節団派遣（その後の条約改正）・日朝修好条規締結（その後の大陸進出）における明治政府の外交の二面性の意味を考察し、その状況を理解する。 【知】	なぜ二面性をもつのか理由を意見発表
	士族の不満と西南戦争	西南戦争を考察し、武士階級にとって明治維新は何であったか理解する。 【思】	プリント提出

2 学習指導案

教科(科目)	地理歴史科 日本史 A	単元名	開国と維新
本時主題	東アジアの国際環境の変化と開国		(1時間目 / 5時間)
本時の目標	<p>「星条旗」「炎上する清国帆船」「黒船に兵糧を運ぶ力士」などの資料から、東アジアのヨーロッパによる「植民地化の危機」状況を把握し、日本においてペリーの来航と不平等条約の締結が、日本の「植民地化の危機」を招いたことを理解し、江戸幕府が倒された理由を考察する。</p> <p style="text-align: right;">【思】</p>		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
<p>・太平洋戦争直後の降伏調印式から近代史の構造を考え、理解させる。</p> <p>10分(経過時間)</p>	<p>日本とアメリカとの関係の重要性の理解 太平洋戦争の敗北と日米関係の理解</p> <p>Question 1 降伏調印式のみズーリ艦上に飾られた2枚のアメリカ国旗とは何か。その意味は。</p> <p>・国旗1は太平洋戦争開戦時のホワイトハウスの国旗 ・国旗2は和親条約締結時のペリー乗船軍艦の国旗 アメリカにとってはいわば「2度目の勝利」</p>  <p style="text-align: center;">国旗2</p>	<p>Q1...国旗を見せながら、現代アメリカ国旗との違い等に注目させて興味関心を引きつつ、説明。正解を誘導。 【関】</p> <p>評価方法 発問、挙手、発表 国旗2については、この場に飾られた理由を考える。答えから、近代史の大きな構造(対欧米外交、一流国の仲間入り)などに理解を進める。</p>	
<p>・東アジア地域におけるアヘン戦争の敗北の意味を考え、理解させる。</p> <p>20分</p>	<p>アヘン戦争の概要の理解</p> <p>Question 2 広州湾で「炎上する清国帆船」の絵から理解できることは何か。</p> <p>・欧米列強による東アジア植民地化の危機を、絵から読み取り表現する。 ・清国敗北に関する幕府の対応を理解(天保の改革の挫折、保守派の抵抗による海防策の遅延)</p>	<p>Q2については、プリントに自分の考えを記入させ、意見発表させる。机間指導により確認。 【資】</p> <p>評価方法 プリントの事後提出で確認</p>	
<p>・ペリー来航の状況とその後の和親条約・通商条約の内容について、その意味を考え、理解させる。</p> <p>35分</p>	<p>アメリカの使節が来航した状況を理解 和親条約(片務的最恵国待遇) 通商条約(関税協定制・領事裁判権の許容)の不平等性を説明</p> <p>Question 3 「黒船に兵糧を運ぶ力士」の絵は何を意味するか。</p> <p>・「ペリーの軍事力を背景とした強硬な要求」に対して屈服した屈辱感への裏返しとして、兵糧を運ぶ力士という設定がなされたことを理解。江戸幕府の対応如何によっては、日本植民地化の危機が存在したことを理解する。</p>	<p>不平等条項については、発問により理解度を確認しながら徹底する。 Q3については、質問紙への記入回収により、評価。意見発表により理解を徹底。 【思】</p> <p>評価方法 質問紙記入</p>	
<p>・ペリー来航、開国の影響を理解する。</p> <p>45分</p>	<p>開国の影響から次の2点から理解し、討幕・明治維新への流れを理解する。 ・幕府独裁の政治体制の動揺(朝廷の介入) ・貿易の開始が社会生活に与えた影響 社会不安</p>	<p>経済・政治のポイントを確認する。</p>	
<p>・ペリー来航、開国がこの後どのような展開を見せるか考える。</p> <p>50分</p>	<p>Question 4 なぜ江戸幕府は倒されるのか(倒れるのか)本時の学習から考えなさい。</p> <p>・本時の学習内容から、討幕の背景を推察。次時への問題提起。</p>	<p>本時の学習内容の確認と次時以降の問題提起を行う。 評価方法 【思】 プリント記入、意見発表</p>	

【公民】「現代社会」

1 単元の指導と評価の計画（各時間ごとの指導と評価の計画）

（特に記録を残す評価）

1 現代社会学習科目ガイダンス（現代社会学習の意義） 年間指導計画の第1時間目の授業			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
1 時間 目	現代社会の学習の意義 高等学校における公民科・地歴科の学習の特色	現代社会学習の意義を、1主体的な考察の重要性、2人間としての在り方生き方についての考えることの重要性、3広い視野から物事を見つめることの重要性を中心に理解する。 学習の2つの要素を理解する。 ・基本的な知識を理解する講義形式の学習 ・考察、課題追究などの主体的に進める学習 「現代社会授業アンケート」への回答 ・中学校の社会科各分野の学習内容、現代社会の諸課題で興味・関心が高いもの等に関する状況を回答	アンケート提出 中学校での学習の定着状況、公民科・地歴科の学習事項への興味・関心の状況を分析する。
2 メディア・リテラシーと課題追究学習のテーマ設定			
2 時間 目	アンケート結果の紹介 メディア・リテラシーの内容	前時のアンケートの中の、生徒の公民分野への興味・関心の状況を確認し、今後の学習の予定を、内容と方法の2面で理解する。 メディア・リテラシーについて、インターネットを利用しながら、次のポイントにおいて理解する。 【技】 ・情報収集の方法における工夫の必要性 ・収集した情報の選別の重要性 ・信頼される情報を発信することの重要性	プリント提出
3 時間 目	科学技術の発達と生命の問題のテーマの確認 VTR視聴 発表する項目を焦点化 次時の「倫理委員会」の説明	小テーマとして生殖医学に関してその技術の概要を理解する。 【知】 ドキュメント・地球時間『生殖医療はどこまで認められるか』を視聴する。 ・課題の所在の確認 生殖医療はどこまで認められるかについて、焦点となる項目を考え、賛否をまとめる。 発表により、相互に焦点となる項目を確認。 次時の「倫理委員会」討議形式で発表することを理解する。 【技】	行動観察・意見発表 焦点となる項目の設定の良否について確認 プリント提出
3 生殖医療はどこまで許されるか「生殖医療倫理委員会」			
4 時間 目	VTRの内容の確認 生殖医療の問題点について確認 生殖医療の行為の適否の判断 「科学技術の発達と生命の問題」に関する他の問題	生殖医療の問題点を議論することについて精子提供者、医学者、精子バンク経営者、判事、生まれてくる子供などいろいろな立場から考えることが重要であることを理解し、積極的に取り組む。 【関】 生殖医療の問題点について、考えを発表する。 【思】 生殖医療倫理委員会1年 組部会を開催し、各グループから出された意見について討議の後、パメラの行動について適否の判断を下す。 【思】 「科学技術の発達と生命の問題」に関して、生殖医療に限らない他の問題を見だし、どのような分野・学問からそのような問題が生じるか指摘する。 【関】 列挙したテーマの中から、さらに調査したいものを選び、資料を収集する。 課題 【知】【思】	行動観察・意見発表 行動観察・意見発表 行動観察・意見発表 プリント提出 行動観察 プリント提出 (次回プリント提出時)
3 「科学技術の発達と生命の問題」に関するレポート作成			
5 時間 目	「科学技術の発達と生命の問題」に関してレポート作成 キーワードの確認	収集した資料をもとにレポートの作成。 【技】 【技】 レポート提出時に、科学技術の発達と生命の問題に関する次のキーワードについて、今後の考えるべき課題であることを確認する。 生命倫理、臓器移植、脳死、クローン、遺伝子操作	プリント（レポート）提出

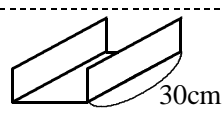
2 学習指導案

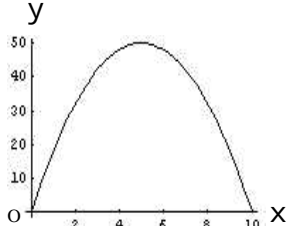
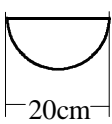

教科(科目)	公民 (現代社会)	単元	現代に生きる私たちの課題「科学技術の発達と生命」								
本時主題	生殖医療はどこまで許されるか? (4時間目 / 5時間)										
本時の目標	「生殖医療の問題点」をVTRを視聴することで、個人の尊重・人間の尊厳・社会へ及ぼす影響などの視点で議論し、科学技術の発達がどのように私たちの生き方に関わるかを、主体的に考え、判断することができる。 【思】										
指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価									
<ul style="list-style-type: none"> ・前回見たVTRを思いだし、その問題点を確認する。 ・本時はVTRに出てきたパメラやギャビーの行った事に対する可否を判断する。題して「生殖医療倫理委員会1年組部会」10分(経過時間) 	<p>前時終了時に提出したプリントをもとに生徒の意見を確認する。 VTRの感想(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亡くなった者の精子を本人の承諾無しに使っていいのか? ・VTRの主人公やその家族のエゴだ。 ・本人にとって幸せなら他人がとやかく言うことではないと思う。 <p>精子や卵子の売買、人工授精、代理母出産などの生殖医療には、法的規制が存在しないことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・VTRの内容が思い出せるように、授業の開始時に視聴用プリントを返却しておく。<注1> <p><評価の方法> 意見発表、行動観察 【関】</p>									
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のグループをつくり、自分の意見・感想を発表し合い、他人の考えを知る。そして今一度、自分の考えを点検する。 ・グループ討議の結果をクラス全体に知らせる。 <p>25分</p>	<p>(1) グループ内でパメラ、ギャビーの行為について発表する。記録者は「賛成(容認)」「反対(否定)」に分けて、用紙にまとめる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">代表者が黒板の所定のところに板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;"><生殖医療倫理委員会1年組部会></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;">賛成(容認)</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">反対(否定)</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 5px;">~</td> <td style="padding: 5px;">~</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 5px;">~</td> <td style="padding: 5px;">~</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 5px;">~</td> <td style="padding: 5px;">~</td> </tr> </table> </div> <p style="text-align: center;">書き出されたものを全体で眺める。</p>	賛成(容認)	反対(否定)	~	~	~	~	~	~	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ分け等の準備は前時しておきこの時点で移動を指示する。 ・各グループに賛成・反対の意見を書くメモ用紙各2枚を配布。 ・各人が必ずグループ内で発表するように指示する。(必要があれば司会者・記録者を教師が指名) ・机間指導をしながら、討議の進行状況を掌握する。その際、進行の仕方、話し合う際の言葉遣いについても指導する。 ・板書は他のグループと重複するものがあったら書かせる。 <p><評価の方法> 机間指導における観察 【思】</p>	
賛成(容認)	反対(否定)										
~	~										
~	~										
~	~										
<ul style="list-style-type: none"> ・各グループから出された意見をもとに、生殖医療の何が問題かを考える。 ・当否を判断しなければならぬ論点について自分の考えをまとめ、クラス全体で討議した後、挙手による評決を行う。 ・自分の意見を書く。 <p>40分</p>	<p>(2) <生殖医療倫理委員会1年組部会>開催この委員会で生殖医療のどんな点について当否を判断するかを決めましょう。黒板の記述を見て同じ点について賛成意見も反対意見もあるものを指摘してください。(予想される論点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫婦(当事者)の合意があるか? ・本人が産むのか? ・本人が責任をもって育てられるか? ・たとえ親族であっても、死者の精子を勝手に利用していいのか? ・親子関係は混乱しないか? <p>(3) (論点をしっかりとふまえさせながら) Q: パメラとギャビーの行動は許される事でしょうか?意見を述べてください。 Q: ではクラス全体で評決をとります。</p> <p>(4) 各自の判断をプリントにまとめる。理由を明確に示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に考えさせ、発言させる(状況によっては、教師が見比べながら選び出していく) ・「子どもの気持ち」も挙がるだろうが、最初は生殖医療の技術面に限ってまとめたい。 <p><評価の方法> 発言とその内容 行動観察</p> <p><評価の方法> プリント提出 【思】</p>									
<ul style="list-style-type: none"> ・「科学技術の発達と生命の問題」について生殖医療以外の問題点をあげる。 ・次時のレポート制作の準備 <p>50分</p>	<p>資料・教科書等を参考に、「科学技術の発達と生命の問題」について生殖医療以外の問題点をあげ、それが、どのような分野・学問領域とかわかるかを示す。 自分で調べてみたいテーマを一つ選んで、次時に簡単にレポート(プリントに様式設定)にまとめることができるように、資料の収集を自宅学習課題にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントに記入 ・問題点がどのような分野・学問領域とかわかるかは、いくつかの例を示して記入しやすくする。 <p><評価の方法> 行動観察 【関】</p>									
次時にプリント(レポート)提出		<p>プリントには、レポート作成のための説明を掲載。次の項目を明記。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ ・テーマ設定の理由 ・自分の意見のまとめ ・情報入手先、出典 									

【数学】「数学」

日 時	平成 年 月 日 第 限	指 導 者	高等学校
指導クラス	1年 組(男子 名、女子 名)	場 所	1年 組 教室
単 元 名	数学 二次関数 第3節 二次関数の最大・最小	使用教材	出版 数学 出版 問題集
教 材 観	二次関数の最大・最小は高等学校における数学の学習の中核をなすものであり、さまざまな関数の最大・最小を考える際の基本となる。また、二次関数を用いて表すことができる事象も多く存在し、数学が果たす役割を感得することができる。		
ク ラ ス 観	落ち着いたあるクラスであり、授業に対する姿勢も前向きである。ほとんどの生徒が、二次関数における基礎的な素養をもっている。特に、問題演習に対しては納得するまで質問する姿勢をみせる生徒が多い。		
指 導 観	二次関数の最大・最小の問題については、全員が理解できるように時間をかけて取り組ませたい。また、与えられた問題に対しては熱心に取り組もうとする姿勢がみられるが、問題解決の後に自らの思考過程を振り返ったり、その意味を考え、より発展的に考えたりするなどの数学的考察に慣れていないため、自らが課題を設定して解決するようなレポートを課したい。		
単元の目標	二次関数のグラフを活用して、関数の値の変化を考察し、最大値・最小値を求めることができる。また、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し、それらを身近な事象の考察に活用できるようにする。		
本時の目標	身近な事象を通して、変化や対応についての理解を深め、結果を予測するなど問題解決に主体的に取り組み、問題解決の後も課題をもって追究する態度を育てる。	本時の位置	4 / 6
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事象を自分の課題として捉えるとともに、問題解決の後も課題をもって追究しようとする。【関心・意欲・態度】 ・2つの数量の間の関数関係を文字を用いて表し、そのグラフを手がかりとして変化の様子を捉えるという考え方ができる。【数学的な見方や考え方】 		

本 時 の 展 開

時 間	学習項目 (指導のねらい)	学 習 活 動 (:指示・説明 :発問・活動)	指導上の留意点・観点別評価 (:評価方法)
導 入 5分	・二次関数の最大・最小について確認する。	$y=ax^2+bx+c$ で、定義域が定められている場合、最大値と最小値はどのように求めればよいか。	・前時に取り上げた課題について、最大値、最小値をどのように求めたのかを確認させる。
展 開 30分	数学化の場面 ・流量を最大にするには、雨樋の容積が最大になるときであり、切り口の面積が最大になればよいことがわかる。	<p>< 課題 ></p> <p>幅20 cm、長さ30 cmのトタン板を右の図のように折り曲げて切り口が長方形の雨樋を作りたい。雨樋を流れる流量を最大にするには、端から何 cm のところで折り曲げればよいか。ただし、水の流れるスピードは一定であるとする。</p>  <p>実際に厚紙を使って雨樋を作り、折り曲げる長さを変えて水量が最大になる場合を予想する。</p> <p>どのような場合に水量が最大になるだろうか。</p> <p>生徒の発表を通して、流れる水量を最大にするには、切り口の面積が最大になる場合であることを説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・折り曲げる長さをいろいろ変えることにより、最大にするにはどのように折り曲げればよいかを意欲的に考えようとする。【関心・意欲・態度】 机間指導により評価する。 ・できるだけ生徒の考えを引き出すよう、時間を十分確保する。面積を計算してお互いに比較する。 ・机間指導により助言する。 ・生徒から、切り口の面積が最大の場合であることを引き出したい。

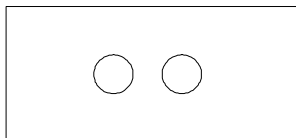
<ul style="list-style-type: none"> ・ 折り曲げる長さを x、切り口の面積を y として y を x の二次関数として表現できる。 <p>数学的考察・処理の場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二次関数の変化の様子がグラフから直観的に分かる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 頂点で y の値が最大になることに気付く。 	<p>切り口の面積が最大となる場合はどのように求めればよいか。切り口の面積を何の関数として対応させたらよいか。折り曲げる長さを x とすると、底辺の長さは、どのようになるだろうか。 x のとる範囲はあるだろうか。あれば求めることはできないか。切り口の面積を y として、 y を x を用いて表わすことはできないか。</p> <p>$y = x(20 - 2x) (0 < x < 10)$ を式変形して、グラフを板書する。</p>  <p>グラフの概形を見て気付くことはないか。 y の値が最大になるのは、グラフ上でどのような位置だろうか。このときの y の値を最大値という。増減表をかいて変化の様子をまとめる。</p> <table border="1" data-bbox="478 1164 853 1243"> <tr> <td>x</td> <td>0</td> <td>..</td> <td>5</td> <td>...</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>y</td> <td>0</td> <td>↗</td> <td>50</td> <td>↘</td> <td>0</td> </tr> </table> <p>本時の課題解決に、二次関数のグラフを利用することが有効であることを確認する。</p>	x	0	..	5	...	10	y	0	↗	50	↘	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字を用いて2つの数量の間の関係を考える。【数学的な見方や考え方】 挙手や発言から、発想を評価する。 ・ 変数 x、底辺の長さ、 x の範囲について、生徒から考えを引き出すように時間を十分確保する。 ・ 正しく式変形してグラフをかくことができるように、理解できていない生徒には、個別に指導を行う。 ・ 生徒に意見を発表させる。 グラフの特徴（右上がり、右下がり）と y の値の増加、減少が結びつき、 y の値が最大となるグラフ上の位置が分かる。【数学的な見方や考え方】 挙手や発言で評価する。
x	0	..	5	...	10									
y	0	↗	50	↘	0									
<p>まとめ</p> <p>15分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめと発展的な課題の提示 	<p>< 発展的な課題 ></p> <p>切り口が長方形の場合を、長さが 20cm の半円形にすると切り口の面積はどのようになりますか。切り口の底辺の長さが 10cm の台形の場合 30°、45°、60° の角度で両端を折り曲げたとき切り口の面積はいくらになるか。一般にどのような角度で折り曲げると切り口の面積が最大になるかを、予想してみよう。</p>   <p>(60° の場合)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ この課題では、切り口を長方形としたが、この条件をはずすことで、発展的に考えることができる。 ・ 身近に見られる雨樋の断面が半円であることから、この課題を与え、断面が長方形の場合と面積を比較させる。 ・ 生徒に発展的な課題を投げかけることにより、興味・意欲を喚起するとともに、発展的に考察し続けることの大切さを認識させたい。 ・ 課題は残り時間で考えさせた後に宿題とし、レポート提出させる。 ・ 身近な事象を自分の課題として捉え、問題解決の後も課題をもって追究しようとする。【関心・意欲・態度】 提出したレポートで評価する。 												

科目	生物	使用教材	数研出版 高等学校 生物 プリント
指導クラス	3年1～3組	単元	第5節 バイオテクノロジー
クラス観	進学希望と就職希望の生徒がいるが、生物 で受験をする生徒はいない。明るくけじめをしっかりとつけられ、授業には集中できる生徒たちである。		
単元の目標	・バイオテクノロジーの光の部分と影の部分を理解し、その将来について考察できる。 ・実験・観察を通してバイオテクノロジー技術を身近に感じ、興味・関心を持つことができる。		
配当時間	7時間	本時の位置	7時間目
本時の主題	細胞融合(プロトプラストの接着)の実験・観察		
本時の目標	実験・観察に意欲的に参加し、バイオテクノロジーに興味・関心を持つ。【関心・意欲・態度】 細胞融合の技術について理解する【知識・理解】		

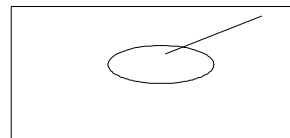
進	学習項目	教師の働きかけ	学習活動	評価の観点	指導上の留意点
導 入 10 分	・本時の目標 ・細胞融合の確認 ・細胞融合の例 ・細胞壁を取り除く酵素 ・プロトプラストの作り方 ・野菜を酵素液に入れる。 ・浸透圧の調節 ・脱気する。 ・湯煎	・「細胞融合の観察実験を行います。」 ・発問「細胞融合の利点は何か？」 ・発問「ポマトは何のために作られたか？」 写真を見せる。 ・発問「オレタチは何のためにつくられたか？」 写真を見せる。 ・発問「動物細胞では細胞を接合させることは比較的容易だが、植物細胞では難しい。それはなぜか？」 ・発問「世界で初めて細胞壁を取り除いたプロトプラストを大量に作ったのは日本人(建部 到)である。細胞壁を取り除くのに使う2つの酵素は何か？」 ・発問「キャベツと赤タマネギをみじん切りにしてあります。これをセルラーゼとペクチナーゼの酵素液に入れる。けれど、このままでは赤血球を水に入れた時と同じことが起こってしまう。何が起こるか？」 「だから、浸透圧を高めるために入っているのがマンニトール。単糖類で、糖尿病の人の甘味料として、飴などに爽快感を与えるものとしても用いられている。」と説明する。 ・発問「脱気したらどうなった？」 「細胞の隙間にあったこの泡が出た分、そこに酵素液が浸透していき反応が速くなる。」と説明する。 ・発問「これを30 で30分間湯煎する。なぜ温めた方がよいか？」 「30分間湯煎したのがみんなのマイクロチューブに分けてある。この中にプロトプラストがある。」と説明する。	・答「受精の不可能な細胞を合わせて雑種を作ることが出来る。」 ・答「トマトの高温耐性とジャガイモの低温耐性を持たせるため。」と答える。(その他に予測される答え「トマトとジャガイモを両方収穫するため。」) ・答「オレンジは美味しいけど、寒さに弱いから耐寒性のあるカラタチと融合させた。」 ・答「細胞壁があるから。」「固くて1つつ剥がれないから。」など。 ・答「セルラーゼとペクチナーゼ」 ・前に集まる。 ・答「溶血。」「水が細胞内に入り、細胞膜が破けてしまう。」など。 酵素液組成(100 ml) pH 5.8 ・マンニトール 0.5M ・セルラーゼ・オノズカ R-10 1.0g ・マセロザイム R-10 0.2g ・ペクトリアーゼ Y-23 10mg ・KCl(3.5%) 3.5g ・CaCl ₂ (0.5%) 0.5g ・答「泡がでた。」 ・答「酵素には最適温度があるから。」 ・席に戻る。	・意欲的に考え、発言できるか。 ・ポマトが作られた本来の目的が認識できているか。 ・なぜ植物細胞では細胞融合が難しいか認識できているか。 ・溶血を思い出せるか。何が起こるか考えられるか。 ・酵素は温度が高いほどよく働くが、高温になりすぎると失活することが認識できているか。	・プロジェクターを用いて説明する。 ・写真や絵を使って視覚的にとらえさせる。 ・ポマトはトマトとジャガイモを両方収穫するために作ったのではないことを認識させる。 ・3年生なので、今まで生物で学習したことを総合して考えられるように発問する。 ・前で演示を行う。
展 開 35 分	実験の手順を説明する。 2種類のプロトプラストをスライドガラスにのせて混合する。 プロトプラストを観察する。 融合促進液をま	プロジェクターを用いて、プロトプラストの接着までを説明する。 ・「2種類のプロトプラストをスライドガラスに乗せて爪楊枝で混ぜる。」と説明する。 ・「プロトプラストを顕微鏡で150倍で観察する。」と説明する。 ・「融合促進液を図のようにまわりに4滴置き、	・プロジェクターを見ながら、目の前に準備してある実験器具を、いつどのように用いるか確認する。 ・実験の注意点をよく聞く。 ・何を探してスケッチするのか理解する。	・真剣に説明を聞いているか。	・プロジェクターを用いる。 ・カバーガラスをかけないので対物レンズを高倍率にしない。予め40倍の対物レンズは外しておく。(液がレンズに付着してしまうの

<p>わりに4滴おいて混合する。 検鏡する。</p>	<p>1滴ずつ混合していき、細胞の接着が見られたらやめる。」と説明する。 ・プロトプラストの接着の図を見せ、「このように2種類のプロトプラストが接着しているものを探してスケッチする。」と指示する。 ・「接着の後、細胞質が混合されれば細胞融合したことになる。なるべく2つの細胞が1つに融合しているものに近いものを観察する。」と指示する。 ・「カバーガラスをかけないように。」と指示する。</p>	<p>融合促進液の組成(100ml)</p>	<p>ポリエチレングリコール 4000 (40%) 40g CaCl₂ (5mM) 55.5mg</p>	<p>で。)</p>
<p>プレパラートの作成 2種類のプロトプラストをスライドグラスにのせる。 プロトプラストの観察 融合促進液をまわりに4滴おいて混合する。 検鏡する。 スケッチ</p>	<p>机間指導 ・接眼レンズと対物レンズの倍率が正しいか、顕微鏡を用いるのは久々であるのでピントを合わせられない生徒がいないか確認する。 ・「プロトプラストは観察するだけで、スケッチはしない。」と指示する。 ・「細胞の接着が見られないか顕微鏡で確認しながら混合する。」 ・ピントや明るさを調節させる。 ・細胞の接着が見られていない班には、「プロトプラストをスケッチするように。」と指示する。他の班で細胞の接着が見られるところがあれば見せてもらうように指示する。</p>	<p>・各自実験を行う。 ・実験方法で分からないことがあれば質問する。 プレパラートの作成手順(下図) ・2種類のプロトプラストを1滴ずつプレパラートにのせる。 ・爪楊枝で混合する。 ・まわりに融合促進液を4滴おく。 ・爪楊枝で融合促進液からプロトプラストに向かって糸を引くようにして静かに混合する。 ・そのままカバーガラスをかけないでピント・光を調節して検鏡する。 ・スケッチをし、色鉛筆で色を塗る。 ・感想を書く。</p>	<p>・意欲的に実験を行っているか。 ・接着と融合の違いは理解出来ているか。 ・提出したスケッチはしっかり書かれているか。 ・気づいたことはあったか。</p>	<p>・手が止まっている生徒がいないか気をつけて見てまわる。</p>
<p>まとめ 5分 片付け</p>	<p>・細胞融合している様子を大型テレビで見せる。 ・「プロトプラストの作成を含めても、2時間ほどで細胞融合を行うことができた。しかし、ポマトもそうだが人間に都合の良い形質だけを合わせるとするのは細胞融合ではなかなか難しい。今回行った細胞融合ももし上手くいけばどんなものができるのか分からないから楽しみでもあるし、ここからが難しいところもある。」と説明する。</p>	<p>・話を聞く。 ・顕微鏡や用具を片付ける。 ・実験プリントを提出して帰る。</p>		<p>・細胞の接着が見られなかった班もいると考えられるので、前の顕微鏡に接着したプロトプラストを予め準備しておき、大型テレビで見せる。</p>

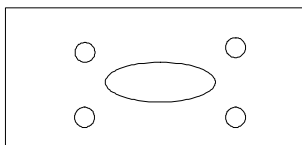
(図)



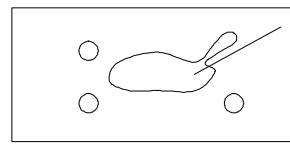
2種類のプロトプラストを1滴ずつプレパラートにのせる。



爪楊枝で混合する。



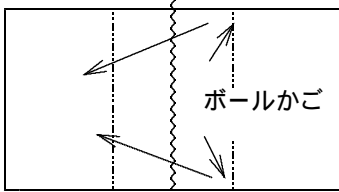
まわりに融合促進液を4滴おく。



爪楊枝で融合促進液からプロトプラストに向かって糸を引くようにゆっくり混合する。1滴混合するごとに顕微鏡で観察し、細胞の接着が起こり始めたらやめる。

平成18年度初任者が10月に実施した研究授業の指導案です。

【保健体育】「体育」

教科(科目)：体育		単元名：バレーボール	本時の位置：5 / 16時間	第1学年A・B組 (男子40人)
本時の目標	(1) ジャンプせずに片手で打つアタック(以下、片手打ちアタック)を打てるようになり、説明・助言できるようになる。(技能・知識理解) (2) ゲームで相手チームに勝つために、片手打ちアタックをより多く行うようチームメイトと工夫しながら、進んでバレーボールの楽しさや特性(アタックのスピード感や協力して守備から攻撃へ切り替え組み立てる楽しさ)を味わおうとする。(思考判断・関心意欲態度)			
授業に必要な用具等		バレーボール(20個) ボールコート(2台) ネット・支柱(2組) 得点版(2台) 電子笛(2個)		
時間	学習内容及び学習活動		指導上の工夫、評価の観点と方法	
導入 8分	準備運動 集合整列、挨拶、出欠席・健康状態の確認 本時の内容把握	チーム毎に集合、ランニング・準備体操及び体づくり運動を行う。 当番の号令で挨拶。各キャプテンは、出欠席と健康状態を確認し、欠席者・体調不良者を報告する。 前時までの内容を確認した上で、本時の流れや重点について理解する。		元気よく、効果的に行うよう声をかける。授業に向かう気持ちを高めるよう、挨拶から本時の内容説明まで、勢いよく、かつ効率良く行う。 特にボールが離れた時に声かけをすること、使用しないボールは必ずかごへ入れることについて徹底する。 本時の活動内容順序から練習試合組み合わせまで、板書して説明する。
展開 35分	ボールを使つてのW-upからパス練習 片手打ちアタックの練習1 片手打ちアタックの練習2 (3分×3セット)	ペア毎に、決められた場所・決められた順で、W-upからパス練習を行う。 ・キャッチボール(片手・両手・両手ワケアウト) ・片手打ち(打ち下ろし・打ち上げ) ・レシーブ練習 ・パス練習(オーバーヘッドパス中心) ペアで向かい合いのまま、一方が相手に向かって、高めのボールを投げ上げ、他方がそのボールを、ノーバウンドで相手に届くよう片手で打ち返す。 コートに3チームずつ入り、2チームは投げ上げトスからアタック練習、1チームはレシーブ練習、3交代で場所と役割を移動。 レシーブ練習では、セッターへ確実に返球することを目指す。セッターへ返球して終わり。 		要点について全体に声をかけながら、個別に気付いた点を助言する。 特に片手打ちの練習は、本時の授業の中心であることを認識し実施するよう声をかける。 片手打ちは、ミートとコントロールを心がけ、相手がキャッチできることを目指し、できれば高い打点とドロップ回転をかけることを心がけるよう指導する。 アタックは、ネットを越えかつコートに入ることを第一に、その上で、できるだけ速く強いボールを打つよう声かけする。グループ内で全員が片手アタックができるよう助言しあうこと、個別に気が付いたことを、声かけする。 アタックの2チームは、セッターが声をかけながら交互に打ち、レシーブのチームは5球毎にローテーションするよう指示する。
35分	攻撃について考える(集合)	発問 点を取るには、どんな返球をしたら良いか。 状況に応じた返球・攻撃方法について理解し、全員が攻撃(片手打ちアタック)できることの必要性を認識する。 今日の練習ゲームは、全員が片手打ちアタックをゲームで使えるようにすることが目標であることを理解する。		評価 【技能・関心意欲態度】 片手打ちアタックができていますか。練習を効率よく進め技能が修得できるよう、チームメイトと協力しているか。 答 「できればスパイク」、「無理ならジャンプせずとも片手打ちでアタック」、「両手で返球する際も、低い弾道やできるだけ速い球、コート後方や人が居ないスペースを狙う」など。 三段攻撃の必要性に結びつける。 体制が崩れて攻撃できない場合は、返球することを最優先するべきであり、周囲も声をかけて、各自が素早く判断するよう指導する。
7分	整理運動・後片づけ・反省会 集合・健康状態の確認・本時の反省挨拶	チーム毎に集合、整理運動を行う。本時の反省をし、その内容や評価をグループカードにメモする。 指導者の評価等を聞き、各自やチームの評価と照らし合わせる。		素早く整理運動へ移行するよう、声をかける。 本時の各自やチームの到達度を振り返らせ、次時への課題を認識させる。共に活動した互いへの感謝の意を込めて、しっかり挨拶させる。

技能の単元計画

単元目標（1年生）

基本となるオーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サーブ・レシーブができる。

トス・片手打ちアタックができるようになる。

レシーブのフォーメーションと状況に応じた攻撃を理解し、ゲームの中で意識してプレイできる。

チームのプレイの精度を高めたり、チームの士気を高めるために、適切な声かけができる。

授業の計画（展開35分の内容）

時数	中心課題	2人組練習	チーム練習	ゲーム
1	ボール慣れ	ボール使うW-UP 直上連続オーバー 直上連続アンダー	チーム編成 体ほぐし運動 円陣パス(何回続くか)	練習ゲーム 仲間作り 声を出す 課題問題点をさぐる
2	オーバーハンドパス アンダーハンドパス	オーバーハンドパス アンダーハンドパス	声かけ 円陣パス(何回続くか) パス&ラン	練習ゲーム 声をかけ、集中する ゲーム。
3	方向変えるパス サーブ	片手打ち 投げ出しボールのレシーブ パス練習各種	方向を変えるパス バックパス (パスや返球を安定) フローターサーブ	練習ゲーム サーブを入れ、落さ ずつなぐゲーム
4	片手打ち サーブレシーブ	片手打ち 片手打ちボールのレシーブ パス練習各種	フローターサーブ サーブレシーブ [サーブレシーブフォーメーション]	練習ゲーム サーブとサーブレシ ーブ
5	片手打ちアタック アタックレシーブ	投げ上げから 片手打ちアタック	投げ上げから 片手打ちアタック レシーブ [アタックレシーブフォーメーション]	練習ゲーム 片手打ちアタック レシーブ
6	トス スパイク	トスから 片手打ちアタック	トス スパイク レシーブ	練習ゲーム スパイク レシーブ
7	三段攻撃 レシーブ トス スパイク	シート練習	トス スパイクor片手打ちアタック レシーブ	練習ゲーム スパイクまたは片手 打ちアタック レシーブ
8	チームの力を最大限に 発揮するゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・パス ・サーブ ・レシーブ ・片手打ち から課題選択	<ul style="list-style-type: none"> ・サーブとサーブレシーブ ・トスからのスパイクor片手打ち アタックとレシーブ 	1次リーグ戦
9	・基本的な技能を大切に するゲーム			終了後、反省や課題 と今後の練習方法を 確認
10	・チームで声を出し、 ミスをしないゲーム			
11				
12	チームの課題を改善する		チームの戦力分析と改善する練習	練習ゲーム
13	チームの総合力を伸ばす ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム練習重視 ・チームと個人の課題を解決したり 特徴を生かし伸ばす練習 		2次リーグ戦
14	・チームの特徴に応じて 作戦を考えたゲームの 展開			終了後、成果と課題 を確認
15				
16				

本例の背景設定

バレーボールについて、原則的には中学校で履修している生徒が多いが、基本的な個人技能を十分に修得していない生徒が多くいるため、1年生ではこれに十分時間をかける必要がある。

バレーボールの楽しさをより味わうようにするためには、全員がスパイクを打てるようになることが理想でありネットを低く設定したいが、その場合は能力の高い生徒の打球が威力を増し危険であるため、ネット高は生徒の3分の2程度がスパイクを打てる程度の高さに設定せざるを得ない。

スパイクをうまくできる生徒の割合は、従来の傾向として、3年生でも半数に満たない。片手でボールをミートすることができるようになることは、スパイクやサーブができるための基礎になるだけでなく、スパイクができない生徒でも3球目を任された時に攻撃できるなど、個人及びチームのプレイの幅を広げる上で大変に大きな要素と考える。

各学年でバレーボールを履修するものとし、それぞれの学年目標の概要は、次のように考えた。

1年生：基本的な技能の習得・すべての役割経験と、攻撃を意識したゲームの組み立て(ポジションでの役割交代)

2年生：基本的技能のレベルアップと各自の特徴を生かしたゲームの組み立て(ツェッター)

3年生：各自の特徴を生かしたプレイのレベルアップと各自の役割分担を意識したゲームの組み立て(ワレッター)

【芸術】「音楽」

1 題材名 言葉と旋律の調和した美しさ

- ・教材（歌唱） 「赤とんぼ」 （三木露風作詞 山田耕筰作曲）
- 「待ちぼうけ」 （北原白秋作詞 山田耕筰作曲）
- 「この道」 （北原白秋作詞 山田耕筰作曲）
- 「からたちの花」 （北原白秋作詞 山田耕筰作曲）

2 題材の目標

- ・言葉と旋律がどのようにかかわり合っているかを理解する。
- ・言葉と旋律が調和することによって生まれる表現の美しさを感じ取って表現する。
- ・曲ができた背景を理解し、より効果的な歌唱表現の仕方を工夫する。

3 題材の評価規準

	観点1 関心・意欲・態度	観点2 芸術的な感受や表現の工夫	観点3 創造的な表現の技能
内容 ごとの 評価 規準	（歌唱） 曲種に応じた発声、視唱、歌詞及び曲想に関心をもち、意欲的、主体的に歌唱表現し、その喜びを味わおうとする。	（歌唱） 音楽の諸要素を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫している。	（歌唱） 楽曲から感じ取ったイメージを、創造的に歌唱表現するための技能を身に付けている。
題材 の 評価 規準	言葉と旋律がどのようにかかわり合っているかに関心をもち、意欲的に歌唱表現し、その喜びを味わおうとする。	言葉と旋律のかかわり合いをとらえ、その特徴や違いを生かした表現の仕方を工夫している。	歌詞を旋律の流れに調和させて、日本語の美しさを感じられるように歌唱表現する技能を身に付けている。
学習 活動 に おける 具体 の 評価 規準	日本歌曲のもつ、言葉と旋律がかかわり合う美しさに関心をもち、意欲的に歌唱表現している。 歌詞に込められた意味や背景、ストーリー性など、作詞者・作曲者の思いに関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。	日本語の語感を大切に、日本歌曲の叙情性を感じながら表現を工夫している。 日本語の歌詞のまとまりや言葉の抑揚が大切にされていることを感じ取り、表現の工夫に生かしている。	歌詞と旋律のかかわり合いを理解し、言葉の抑揚を生かして表現する技能を身に付けている。 旋律、強弱、速度、音色などの要素とかかわり合いを感じながら、美しい日本語で表現する技能を身に付けている。

4 題材指導計画（5時間）

時	主な学習活動	評価規準と評価方法
1	4つの日本歌曲を表現し、それぞれの特徴や違いを感じ取って表現する。	関心・意欲・態度 ノートの記録、表現の様子を観察

2	「赤とんぼ」に関心を持ち、作曲者の一音符一語主義を感じて表現する。	関心・意欲・態度 練習の観察 芸術的な感受・工夫 発言、観察
3	「この道」で、旋律が歌詞の抑揚と合っていない部分の表現を工夫する。	芸術的な感受・工夫 その部分の練習の観察、ノート記録
4	*省略(本時の展開参照)	
5	4曲から各自が心を惹かれた曲を選び自分なりの表現を工夫する。	創造的な表現の技能 練習の観察、発表のときの表現

5 本時のねらい

- ・日本語の歌詞のまとまりや抑揚が生きるように旋律がつくられていることに気付き、それを生かした歌唱表現ができる。

6 本時の展開(4/5時間)

	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
導入	1. 既習曲(世界の民謡)を歌い、歌唱表現の学習に取り組む雰囲気づくりをする。			・それぞれの特徴を生かしながら表現するよう指導する。
展開	2. 「からたちの花」を全員で表現する。 ・一つ一つの言葉をていねいに ・旋律の動きを間違えないように ・作詞者・作曲者の曲に対する思いを確認する。	観点3 - 歌詞と旋律のかかわり合いを理解し、言葉の抑揚を生かして表現する技能を身に付けている。	観察 「さいたよ」「いたいよ」の部分を中心に表現の様子から確かめる。	・旋律の動きを間違えやすいということを、今日の学習に生きるよう意識付ける。
	3. 6連ある歌詞は同じようなまとまりなのに旋律がそれぞれ少しずつ違っている意味を考え、表現に生かす。 ・「さいたよ」と「いたいよ」を例に仲間とともに考え、確かめ合う。 ・他の部分についても考え、表現の仕方を工夫し練習する。			・本題材でこれまで学習した内容を生かして考える。 *「この道」など
まとめ	4. この曲の表現上のコツについて、教師の解釈をもとに学び、表現する。			・別紙資料をもとに、ポイントを表現しながら確かめる。
	5. 声楽家による表現を鑑賞し、表現のコツを確かめるとともに、表現の多様さを感じ取る。			・表現の特徴とよさを感じ取る。

【芸術】「美術」

(1) 題材名 「自画像」 A 表現(1) 絵画 B 鑑賞

(2) 時間数 全14時間

(3) 本時のねらい

多様な表現形式の特質の理解に基づき、効果的な表現方法を工夫し、自己の追求したい主題の構想を練ることができる。

(4) 本時の位置 3 / 14時

(5) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
導 入	<p>資料作品を鑑賞し、構成にかかわる多様な表現の効果を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人物の向きや表情による効果 人物の表情と背景のかかわり 複数の人物や物による構成 <p>本時の課題を明確に意識する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>主題をより効果的に表現できる構成を考えよう。</p> </div>	<p>興味をもって作品を鑑賞し、作者の思いや表現の効果を感じ取る。 【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発言 	<p>幅広い表現の可能性を感じさせるよう、多様な構成にかかわる資料の提示をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品についての感想を交流する中で、それぞれのよさが味わえるようにする。
展 開	<p>自分のテーマや思いを効果的に表現する画面構成を、何枚もアイデアスケッチを行い追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな角度から自分を見つめ、スケッチを通して、中心となる自分の向きや形、表情などの構想を練る。 <p>・主題や自分を効果的に表現するための背景や、構成の仕方を考える。</p>	<p>< b - > 多様な表現形式の特質の理解に基づき、効果的な表現方法を工夫し、自己の追求したい主題の構想を練る。 【芸術的な感受や表現の工夫】</p> <p>< 評価の方法 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 観察 アイデアスケッチ、 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 何枚もスケッチをし、様々な構成を試みている。 主題と結びつけた構成の効果を生かしている。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 学習ノート 自己評価 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 学習後、課題意識や表現に対する意識等をみる。 </div>	<p>【Bに達しない生徒への指導】</p> <p>どんな自分を表現したいのかを聞き取り、主題を明確にする。</p> <p>自分のスケッチで、表現上課題となっているところを意識させ、具体的な見方や表し方について指導する。</p> <p>鏡を見て、自分の表情を丁寧に観察することを大切にする。</p> <p>主題を効果的に表現するための資料により、様々な方法を示し、最も適している方法を選び試してみる。</p>
ま と め	<p>個々の取組についての交流を通して、表現の幅を広げたり課題を明確にしたりする。</p> <p>学習ノートに本時の取組について評価する。</p>	<p>作品を鑑賞し、表現意図や表現方法を理解し、そのよさを味わうことができる。 【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習ノートに、工夫してよくなったところと課題について書く。 	<p>自分や仲間の作品を振り返り、よさや工夫した点を確認するとともに、次時への課題と意欲がもてるようにする。 (評価の観点の工夫)</p>

【書道】「書道」

教科(科目)	書道	単元名	漢字仮名交じりの書の学習
本時の主題	生活の中の筆文字のよさや美しさを鑑賞し、書の美の要素の理解を深める。 (1時間目/2時間)		
本時の目標	ア 日常生活における筆文字のよさや美しさを味わう。【鑑】 イ 字形の変化と中心移動に注目し、書の美の要素を指摘した適切な言葉で表現する。【鑑】		
教材観	日常生活の中の現代感覚にあふれた筆文字に注目させることで、書のよさや美しさ、効用を改めて感じさせることができる。生徒が興味・関心を持ちやすく、意欲的・主体的に取り組むことができる教材である。		
	学 習 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 観 点 別 評 価
導 入 10分	前時の学習内容の確認 本時の学習内容と目標の理解	友達の作品を通して、前時の学習内容を確認する。 グループ活動で、自分が集めた筆文字をお互い交流し、書の美の要素を学習することを理解する。	前時の作品を掲示しておく。 作品のよさを指摘し、意欲を喚起する。 休業中の課題(筆文字集め)をグループ(4~5人)ごとにまとめて返却する。
展 開 35分	直感的鑑賞 第一印象による書のよさや美しさの把握 分析的鑑賞 書の美の要素を理解する	鑑賞教材(1)の中から自分が好きな作品を2点選び、第一印象を鑑賞カードに記述する。 グループ活動で、お互いに選んだ理由や第一印象を発表し合い、自分が気づかなかった視点を探す。 自分が好きな作品のよさや美しさが何によるものなのか、書の美の要素を理解する。 [板書事項] ・字形(造形的な美しさ) ・線質(線の表情の美しさ) ・全体の構成(紙面への配置の美しさ) 分析した結果に基づいて、改めて自分が好きな作品を2点選び、書の美の要素をあらゆる言葉を使って鑑賞カードに記述する。 グループ活動で、お互いの意見を発表し合い、友達の意見を整理して鑑賞カードに記入することで、お互いの感じ方の共通点及び相違点を確認する。	第一印象を大切にし、自分が好きな作品のよさや美しさを、言葉で表現させる。 目標Aに対する具体的評価規準と評価方法 [規準]自分が感じ取った書のよさや美しさをはっきりと述べている。【鑑】 [方法]観察(机間指導) 状況Cの生徒への手だて ・掲示してある作品と、共通するよさはないか助言する。 自分の意見と比較しながら聞くよう助言する。 資料 から書の美の要素をあらゆる言葉を、鑑賞教材(2)(3)から字形の変化及び中心移動を説明し、鑑賞教材(4)から書の美の要素をまとめ、理解させる。 直感的鑑賞からの深まりを確認させる。 目標イに対する具体的評価規準と評価方法 [規準]書の美の要素を使って、自分が感じ取った書のよさや美しさを記述している。【鑑】 [方法]観察(机間指導) 状況Cの生徒への手だて ・書の美の要素となる言葉を、資料の中から指し示すことで、気づかせる。 要点を押さえさせる。 机間指導の中で2~3人を指名し発表させながら、書の美の要素を再確認させる。
ま と め 5分	本時のまとめ 次時の確認	本時の自己評価を鑑賞カードに記述し提出する。	グループ活動に参加し、お互いを尊重しあった活動を通じて得られた、成果と課題を確認させる。 評価方法 ・提出された鑑賞カードの記述状況による。